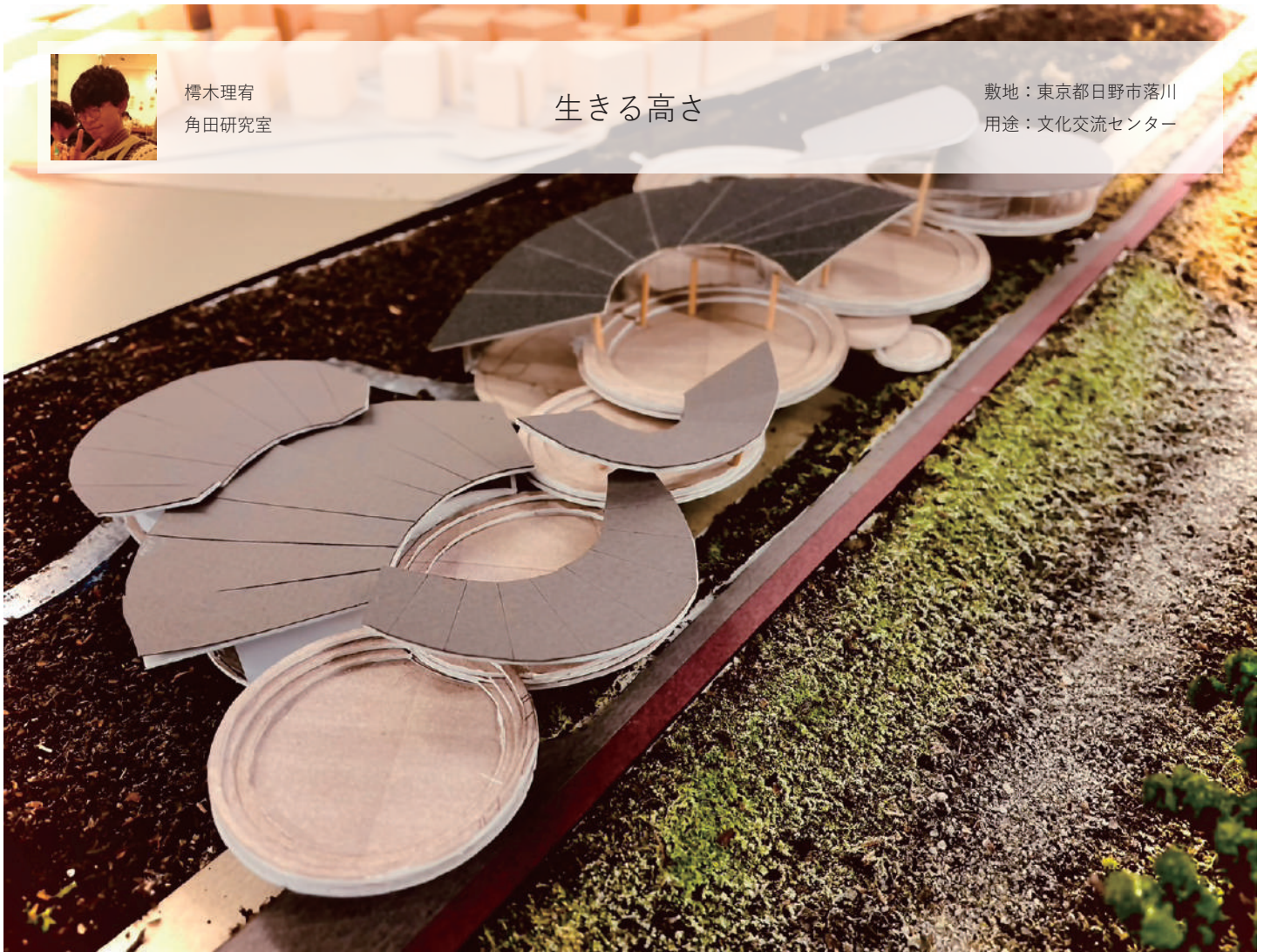




櫛木理宥
角田研究室

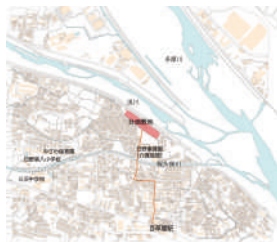
生きる高さ

敷地：東京都日野市落川
用途：文化交流センター



Concept

「住民が交流する場」、「豊かな経験を得られる場」としての水田公園に新たに「こどもの成長に合わせた活動ができる場」という価値を創出する。産前から成人まで、あるいはそれ以降でも利用できる施設として、産前では母親の育児相談や親同士の交流の場、産後は「遊び」・「体験」・「学習」というこどもの成長に欠かせない経験ができる場、成人後の子育て世代や高齢者となっても他世代との交流ができる場（それぞれの場は離れていても物理的につながって相互に存在を確認できるようなカタチ）を創り出す。



敷地内の円形水田



用水路が敷地外周部に流れる
ホタルなどの水棲生物が見られる

1. 産前の出産・育児相談や子育て親同士の交流の場
2. 子育て世帯が子どもと一緒に遊んだり活動できる場
3. 成人・高齢者が多世代と交流ができる場



Formation



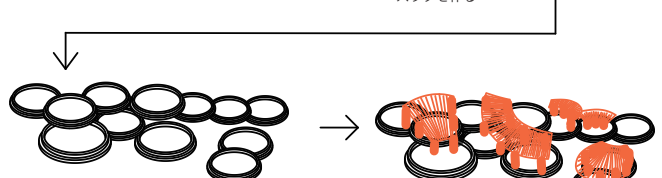
1. 円形のスラブを用意する



2. 畦に見立てた段差を付ける



3. 径や焦点に差を付け、多形状の円・楕円スラブを作る

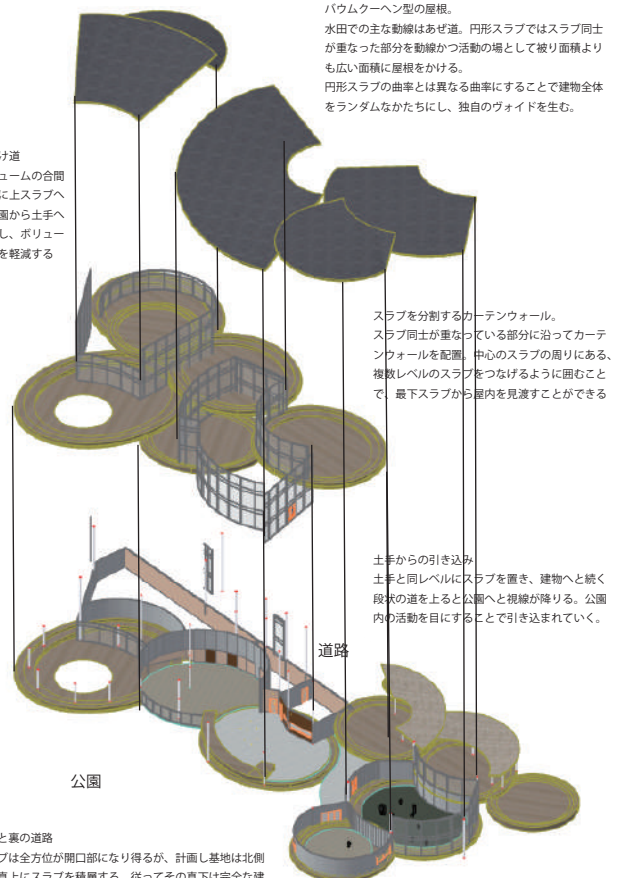


4. スラブを積層させる

5. 動線やヒューマンスケールに留意して屋根をかける

Isometric

土手への抜け道
二つのボリュームの合間を縫うように上スラブへと続く。公園から土手への抜けを出し、ボリュームの圧迫感を軽減する



バウムクーヘン型の屋根。
水田での主な動線はあぜ道。円形スラブではスラブ同士が重なった部分を動線かつ活動の場として被り面積よりも広い面積に屋根をかける。
円形スラブの曲率とは異なる曲率にすることで建物全体をランダムなたちにし、独自のヴォイドを生む。

スラブを分割するカーテンウォール。
スラブ同士が重なっている部分に沿ってカーテンウォールを配置。中心のスラブの周りにある、複数レベルのスラブをつなげるように囲むことで、最下スラブから屋内を見渡すことができる

土手からの引き込み
土手と同レベルにスラブを置き、建物へと続く段状の道を上ると公園へと視線が降りる。公園内の活動を目にすることで引き込まれていく。

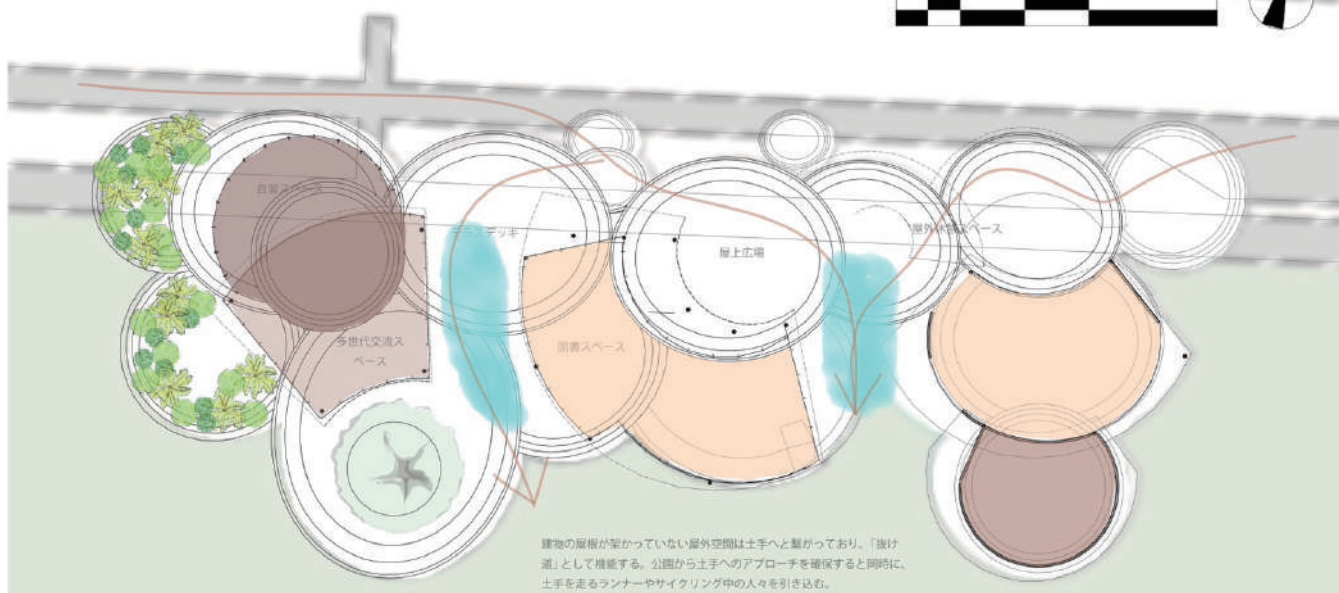
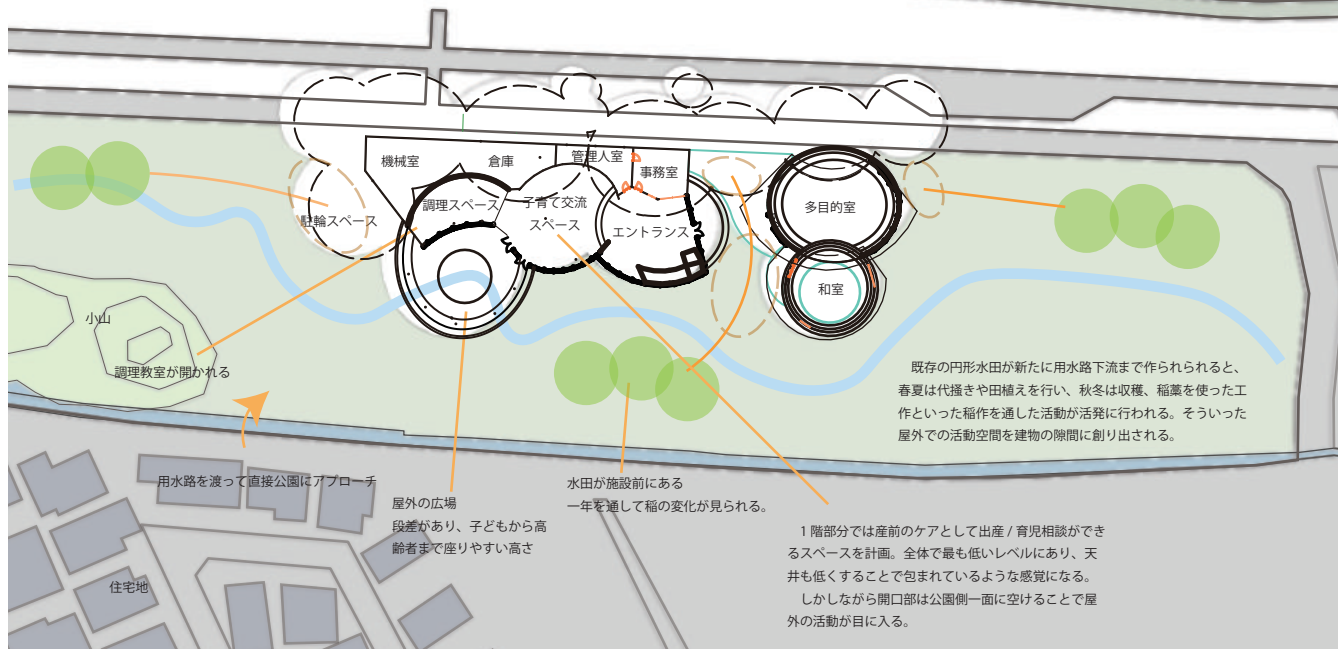
表の公園と裏の道路

円形スラブは全方位が開口部になり得るが、計画し基地は北側の道路の真上にスラブを積層する。従ってその真下は完全な建物の裏側となり、公園に面する南に利用者動線、道路のある北を管理者動線としている。

1 階配置図

計画書室：子育て相談室、調理室、多目的室、和室、
事務室、管理室、倉庫、機械室

浅川



断面図 1 : 250

